

平成30年度岩手町駐在薬用作物の活動について

今月は、岩手町駐在の薬用作物の安定生産の取組みについてご紹介します。

1 薬用作物の安定生産に向けた取組み

岩手町では、薬用作物を中山間地域の多様な立地特性を活かすことができる品目として生産を推進していますが、原因不明の生育不良や除草作業の負担がネックとなって生産面積が徐々に減少しています（H29 岩手薬草生産組合生産面積 約29ha）。

このため、普及センターでは病虫害防除所等との連携で病名を特定し、有効な対策を実証してきました。また、資材を活用した除草の省力化についても成果が得られましたのでご紹介します。

2 これまでの主な成果

(1) 安定生産技術の確立 ～生育不良の原因を解明～

これまで解明されていなかった生育不良の原因を、薬用作物7品目の28病虫害について明らかにしたことで、適切な防除対策を見出すことができました。

特に、カノコソウでは土壌由来の病害である半身萎凋病が種苗に感染し、被害が拡大していました。そのため、農事組合法人一方井宮農組合（以下、「営農組合」）と連携し、目視で選抜した健全株を、田畑輪換圃場で育苗する試験を実施しました。結果は、半身萎凋病がほとんど発生せず、枯死株は大幅に減少しました。

(2) 作業の省力化 ～除草シート等の活用による省力化～

薬用作物は使用できる農薬が限られているため、カノコソウを対象に、定植うね部のマルチと通路の除草シートを組み合わせる、物理的な雑草抑制を実証しました。

この結果、十分な抑草効果が得られることが分かりました。資材費はかかりますが、除草作業の大幅な省力化に加え、除草の遅れによる生育不良が解消され単収が向上することで、数年で費用対効果が得られると考えられます。



3 30年度の主な取組

(1) 安定生産技術の確立

田畑輪換栽培(※)により土壌由来の病害発生を抑制できることが分かったため、健全な種苗を確保するために、カノコソウ、トリカブトの種苗採種圃を営農組合の協力により設置しています（採種圃面積 40a）。薬用作物採種圃の設置は国内で先駆的な取組です。

(2) 作業の省力化

これまで実証した除草シート等による省力化実証を、品目を拡大して取り組んでいます。また、機械化体系の先進事例を学び、地域に活用できないか検討する予定です。

4 最後に

現在、必要な生薬の8割を中国からの輸入に依存していますが、中国国内での生薬需要が高まり価格が高騰していることや、消費者などの国産志向などから、近年、メーカーは国内での生薬の調達に力を入れています。

普及センターでは、得られた成果を「病虫害図解シート」や「薬用作物栽培の手引き」にまとめ、岩手薬草生産組合員に配布するなど、安定生産技術の普及に努めるとともに、関係機関と連携して生産拡大に向けた取組みを支援していきます。

※ 田畑輪換栽培：水田で稲と畑作物を交互に輪作することです。湛水により土壌由来の病原菌は死滅するため、半身萎凋病等の感染防止が可能です。

土壌診断受付中！！

普及センターでの土壌診断受付についてお知らせします。



1 対象者・・・JAの組合員・生産部会員**以外**の生産者

※ JA組合員の生産者であればJAの営農経済センターで土壌診断を受付けています。普及センターとは受付期間が異なるのでご確認ください。

2 普及センターへのサンプル持ち込み期限

・・・平成30年12月21日(金)

各作目担当が受け付けます。サンプルの提出方法は別添チラシを参照してください。

※ 期間内の料金は無料ですが、外部委託のため期限を過ぎると受付られません。

※ 期間の後半は受付が集中し、結果をお返しするまでに1か月以上要する場合があります。早めの持ち込みがおすすめです。

★ 土壌診断に基づく適正施肥を実施しましょう！ ★

9/15～11/15は、秋の農作業安全月間です！

稲刈りなど収穫の最盛期を迎えるこの時期は、例年、農作業事故が多く発生しています。秋は日没が早まることから、ゆとりを持った作業のほか、夕暮れ時には夜光反射材を身に着けるなど、事故防止を心がけましょう。

また、一人での作業は避け、家族には作業場所と帰宅時刻を知らせましょう。

平成30年度農作業安全運動スローガン

「農作業 ころころのゆとりで 農作業安全」



『いわてアグリベンチャーネット』をご活用ください！

農業技術や病害虫に関する情報、各地域の情報など様々な情報が満載！

『いわてアグリベンチャーネット』で検索！

URL：<https://i-agri.net/>

こちらが
ホーム画面！

